

第3章 環境指標の把握と評価

第1節 大気汚染



「環境フェスタみさと」環境ポスター展 三郷環境整備組合賞 北中学校 篠田 和佳奈 さん



「環境フェスタみさと」環境ポスター展 三郷市議会議長賞 八木郷小学校 山崎 日和 さん

第 1 節 大 気 汚 染

1 環境基準等

(1) 環境基準値

二 酸 化 硫 黄 (SO ₂)	日平均値が 0.04ppm 以下であり、かつ、1 時間値が 0.1ppm 以下であること。
一 酸 化 炭 素 (NO)	日平均値が 10ppm 以下であり、かつ、1 時間値の 8 時間平均値が 20ppm 以下であること。
浮 遊 粒 子 状 物 質 (SPM)	日平均値が 0.10mg/m ³ 以下であり、かつ、1 時間値が 0.20mg/m ³ 以下であること。
光化学オキシダント (OX)	1 時間値が 0.06ppm 以下であること。
二 酸 化 窒 素 (NO ₂)	日平均値が 0.04ppm から 0.06ppm までのゾーン内又はそれ以下であること。

(2) 環境基準による大気汚染の評価

大気汚染状況に関する環境基準の評価は、以下のとおり定められている。

- ① 1 時間または 1 日を通した測定結果に係る短期的評価
- ② 年間を通した測定結果に係る長期的評価

1 短期的評価

環境基準と 1 時間値又は 1 日平均値とを比較して評価。浮遊粒子状物質、二酸化窒素、一酸化炭素及び光化学オキシダントの環境基準への適否について評価を行う。

2 長期的評価

環境基準による大気汚染の評価手法には測定結果の年間の平均値と環境基準値とを比較する年平均値と、測定結果のうち特定の値と環境基準値とを比較する年間 98% 値、2% 除外値がある。

(1) 年平均値

1 年間に測定された欠測を除くすべての 1 時間値を合計した数値を、その年度での測定時間数で割り算して、最小単位 (0.001ppm 等) 未満を四捨五入して得られる算術平均値である。

(2) 年間 98% 値

1 年間に測定されたすべての日平均値 (欠測日を除く) を、1 年間での最低値を第 1 番目として、値の低い方から高い方に順 (昇順) に並べたとき、低い方 (最低値) から数えて 98% 目に該当する日平均値。

(3) 2% 除外値

1 年間に測定されたすべての日平均値 (欠測日を除く) を、1 年間での最高値を第 1 番目として、値の高い方から低い方に順 (降順) に並べたとき、高い方 (最高値) から数えて 2% 分の日数に 1 を加えた番号に該当する日平均値。

(3) 炭化水素に係る指針

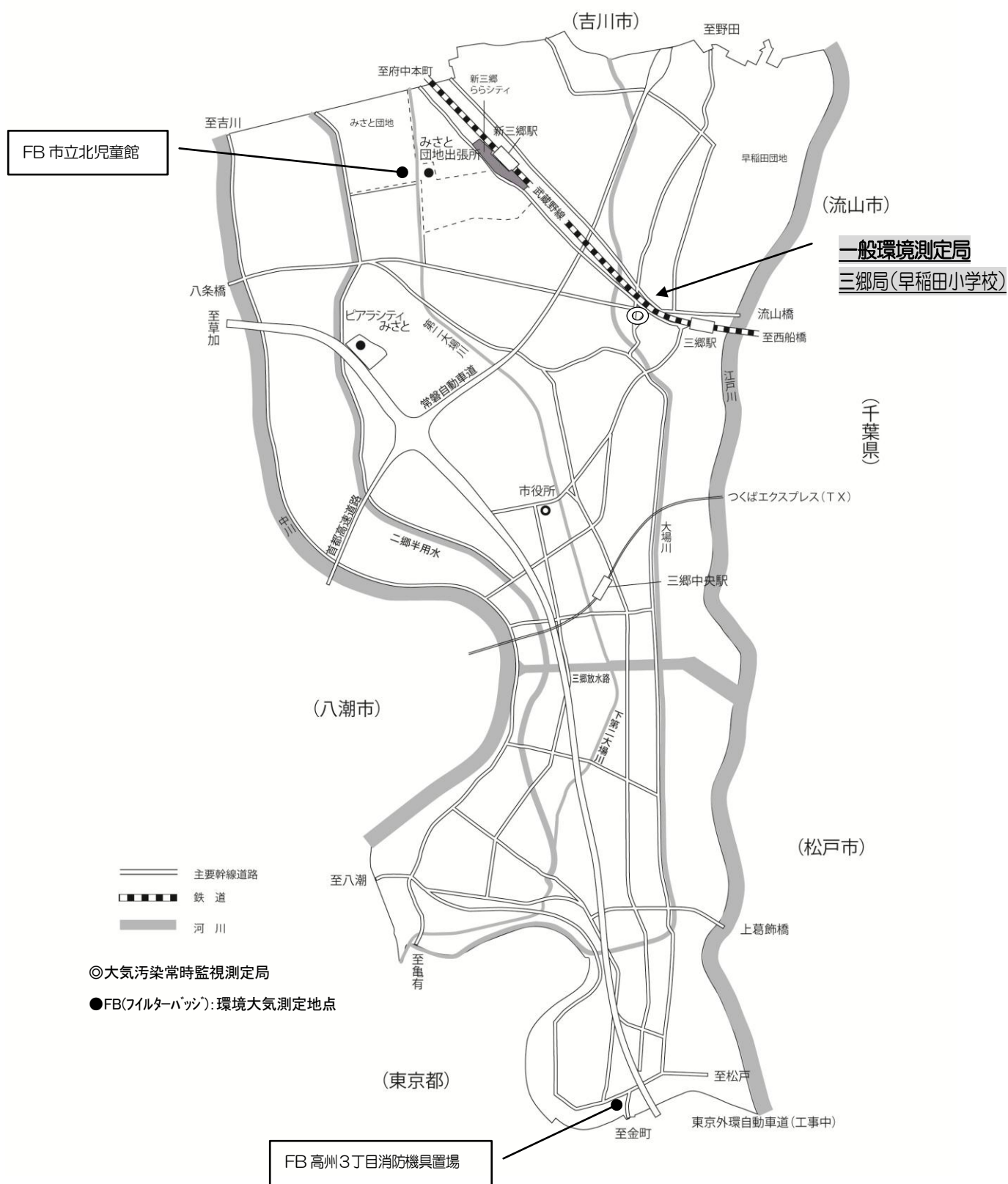
光化学オキシダント生成防止のための大気中炭化水素濃度の指針

物 質	非メタン炭化水素
指 針	光化学オキシダントの日最高 1 時間値0.06ppm に対応する午前6時から午前9時までの非メタン炭化水素の3時間平均値は、0.20ppmC から0.31ppmC の範囲にあること。

(4) 大気汚染常時監視測定局

測定局の種類	一般環境測定局
測 定 局 名	三 郷 局
所 在 地	三郷 3-2-1 (早稲田小学校)
用 途 地 域	住 居 地 域
測 定 項 目	二酸化硫黄、浮遊粒子状物質、窒素酸化物、光化学オキシダント、風向・風速
主 要 道 路	・主要地方道草加一流山線 ・主要地方道三郷一松伏線
設 置 主 体	埼 玉 県

(5) 大気汚染測定地点図



2 一般環境測定局（常時監視）測定結果

(1) 二酸化硫黄^{いおう}〔SO₂〕の測定結果と評価

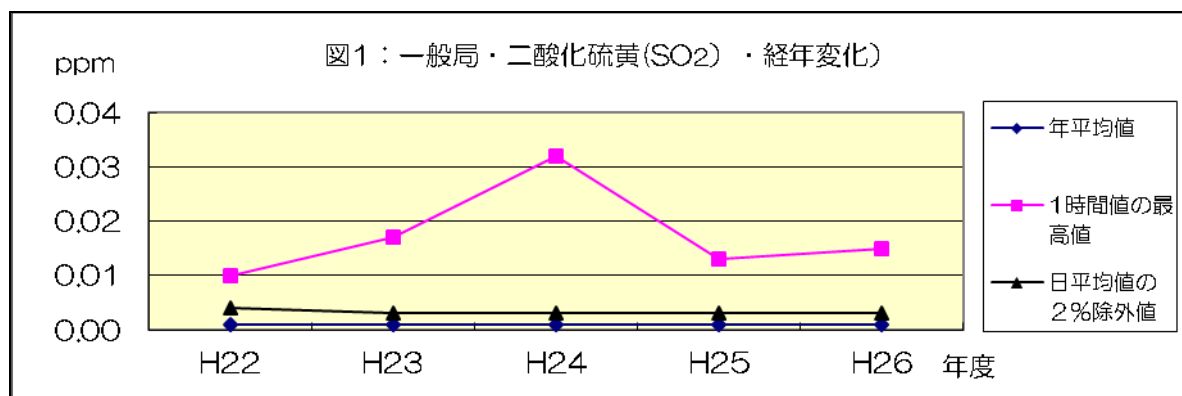
平成26年度の二酸化硫黄の年間値（表1 参照）は、年平均値、1時間値の最高値及び日平均値の2%除外値が、それぞれ0.001ppm、0.015ppm、0.003ppmである。前年度に比べると、年平均と日平均値の2%除外値は増減なし、1時間値の最高値は0.002ppm増加した。

過去5ケ年の経年変化（図1を参照）をみると、年平均値では0.001ppm、1時間値の最高値では0.01～0.032ppm、日平均値の2%除外値では0.003～0.004で推移しており、横ばい傾向にある。

※ 環境基準の達成状況については、長期的評価、短期的評価ともに過去5年間に渡り達成の状態が続いている。

年間値及び経年変化（表1）

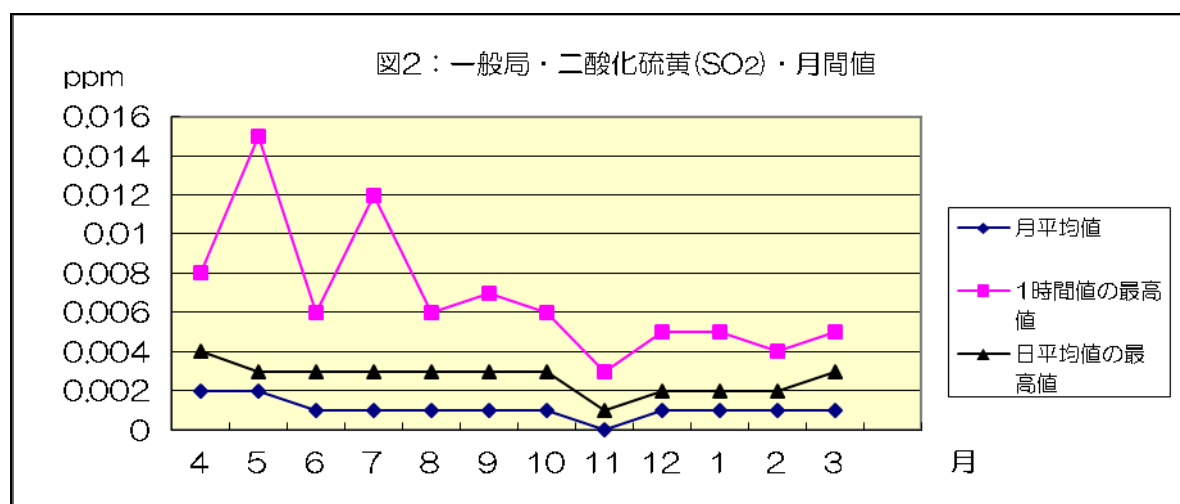
項 目	単 位	24年度	25年度	26年度
有効測定日数	日	365	364	365
測定時間	時間	8,661	8,659	8,675
年平均値	ppm	0.001	0.001	0.001
1時間値が0.1ppmを超えた時間	時間	0	0	0
日平均値が0.04ppmを超えた日数	日	0	0	0
1時間値の最高値	ppm	0.032	0.013	0.015
日平均値の2%除外値	ppm	0.003	0.003	0.003
日平均値が0.04ppmを超えた日が2日以上連続したことの有無	有・無	無	無	無
環境基準の長期的評価による日平均値が0.04ppmを超えた日数	日	0	0	0
環境基準〔短期的評価〕	○・×	○	○	○
環境基準〔長期的評価〕	○・×	○	○	○



平成26年度の月間値（表2及び図2参照）については、月平均値が0.001～0.002ppm、1時間値の最高値が0.003～0.015ppm、日平均値の最高値が0.001～0.004ppmで推移している。

平成26年度 月間値 （表2）

項目／月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
有効測定日数(日)	30	31	30	31	31	30	31	30	31	31	28	31
測定時間(時間)	717	740	716	736	735	712	735	709	738	735	665	737
月平均値(ppm)	0.002	0.002	0.001	0.001	0.001	0.001	0.001	0.000	0.001	0.001	0.001	0.001
1時間値が0.1ppmを超えた時間(時間)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
日平均値が0.04ppmを超えた日数(日)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
1時間値の最高値(ppm)	0.008	0.015	0.006	0.012	0.006	0.007	0.006	0.003	0.005	0.005	0.004	0.005
日平均値の最高値(ppm)	0.004	0.003	0.003	0.003	0.003	0.003	0.003	0.001	0.002	0.002	0.002	0.003



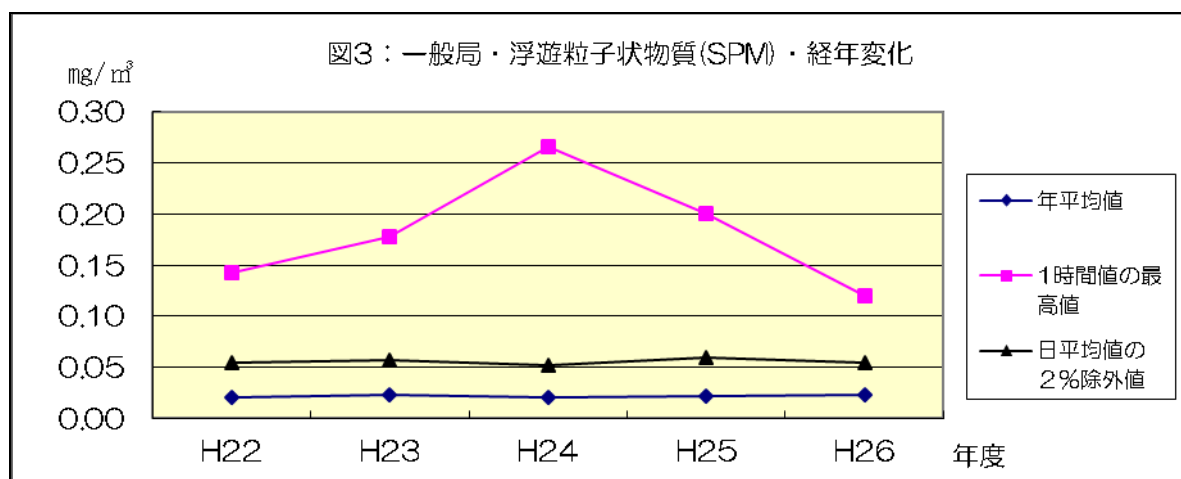
(2) 浮遊粒子状物質〔SPM〕の測定結果と評価

平成26年度の浮遊粒子状物質（表3参照）については、年平均値が $0.023\text{mg}/\text{m}^3$ 、1時間値の最高値が $0.120\text{mg}/\text{m}^3$ 、日平均値の2%除外値が $0.054\text{mg}/\text{m}^3$ であり、前年度に比べると、1時間値の最高値は $0.080\text{mg}/\text{m}^3$ の減少、日平均値の2%除外値は $0.006\text{mg}/\text{m}^3$ の減少となった。

過去5ケ年における経年変化（図3参照）をみると、年平均値では $0.021\sim 0.023\text{mg}/\text{m}^3$ 、1時間値の最高値では $0.120\sim 0.266\text{mg}/\text{m}^3$ 、日平均値の2%除外値では、 $0.052\sim 0.060\text{mg}/\text{m}^3$ の間にあり、前年度と比較し横ばい傾向にある。

年間値及び経年変化（表3）

項 目	単位	24年度	25年度	26年度
有効測定日数	日	363	361	363
測定時間	時間	8,681	8,655	8,696
年平均値	mg/m^3	0.021	0.022	0.023
1時間値が $0.20\text{mg}/\text{m}^3$ を超えた時間	時間	1	0	0
日平均値が $0.10\text{mg}/\text{m}^3$ を超えた日数	日	1	0	0
1時間値の最高値	mg/m^3	0.266	0.200	0.120
日平均値の2%除外値	mg/m^3	0.052	0.060	0.054
日平均値が $0.1\text{mg}/\text{m}^3$ を超えた日が2日以上連続したことの有無	有・無	無	無	無
環境基準の長期的評価による日平均値が $0.1\text{mg}/\text{m}^3$ を超えた日数	日	0	0	0
環境基準〔短期的評価〕	○・×	×	○	○
環境基準〔長期的評価〕	○・×	○	○	○

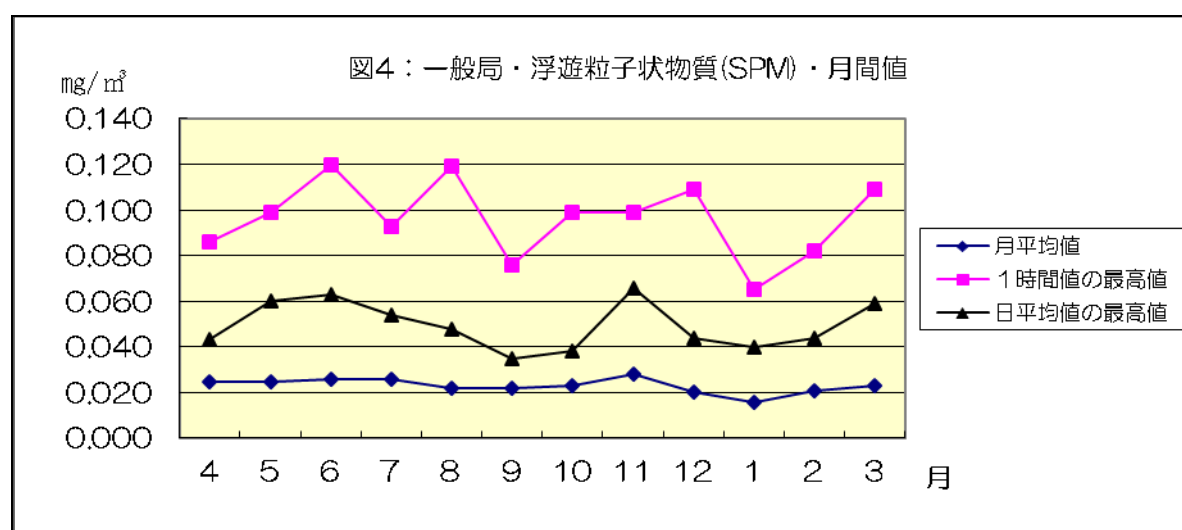


平成26年度の浮遊粒子状物質の月間値（表4及び図4参照）については、月平均値が0.016～0.028mg/m³、1時間値の最高値が0.065～0.120mg/m³、日平均値の最高値が0.035～0.066mg/m³で推移している。

浮遊粒子状物質の発生源には、工場、事業所等のボイラーや自動車の排ガスがあるが、最近では、自動車の排ガスによるものが主流を占めているといわれている。

平成26年度 月間値 （表4）

項 目／月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
有効測定日数 (日)	30	31	30	31	31	30	29	30	31	31	28	31
測 定 時 間 (時間)	717	741	717	741	740	717	715	716	741	741	669	741
月 平 均 値 (mg/m ³)	0.025	0.025	0.026	0.026	0.022	0.022	0.023	0.028	0.020	0.016	0.021	0.023
1時間値が0.2mg/m ³ を 超えた時間(時間)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
日平均値が0.1mg/m ³ を 超えた日数(日)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
1時間値の最高値 (mg/m ³)	0.086	0.099	0.120	0.093	0.119	0.076	0.099	0.099	0.109	0.065	0.082	0.109
日平均値の最高値 (mg/m ³)	0.043	0.060	0.063	0.054	0.048	0.035	0.038	0.066	0.044	0.040	0.044	0.059



(3) 光化学オキシダント [OX] の測定結果と評価

平成26年度光化学オキシダントの年間値（表5参照）については、昼間の1時間値が0.06ppmを超えた時間数が364時間であり、前年度に比べると21時間の増加であった。

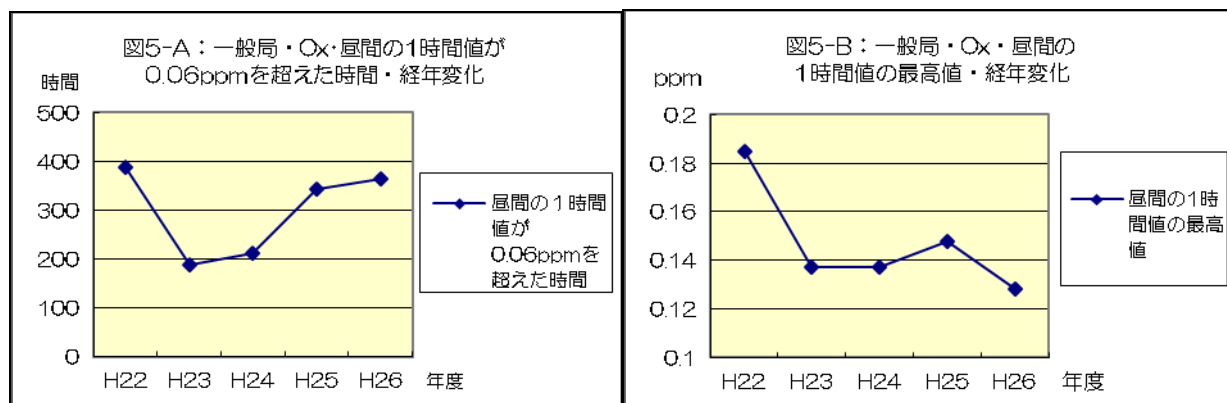
過去5ケ年の経年変化（図5-A・B参照）では、昼間の1時間値が0.06ppmを超えた時間が、189～387時間、昼間の1時間値の最高値が0.128～0.185である。

光化学オキシダントの発生は、その年の気温等の気象条件に左右されるため光化学スモッグ注意報の発令回数も年度によってバラツキが生じている。

なお、平成26年度の光化学スモッグ注意報の発令回数は、予報が8日、注意報5日であり、前年度と比べると発令回数は減少している。

年間値及び経年変化（表5）

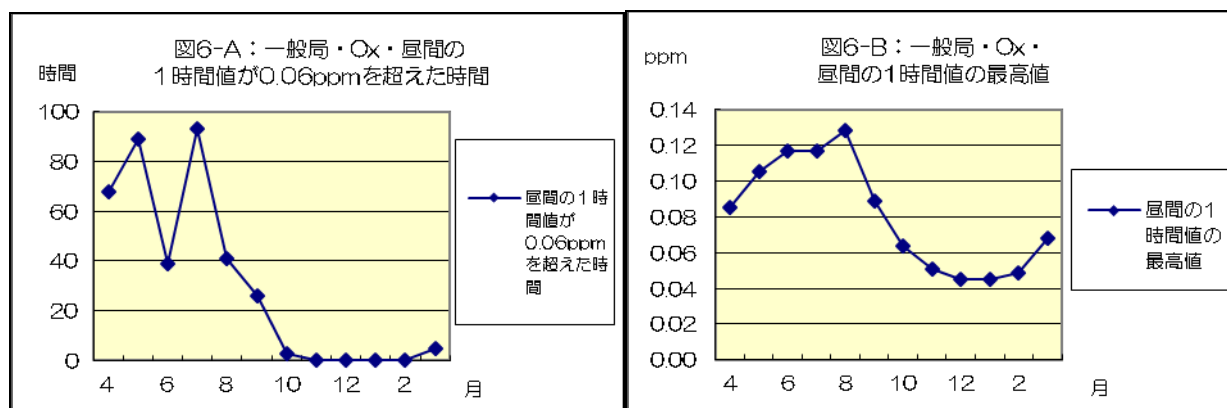
項 目	単位	24年度	25年度	26年度
昼間の測定日数	日	365	365	365
昼間の測定時間	時間	5,412	5,419	5,403
昼間の1時間値の年平均値	ppm	0.027	0.029	0.029
昼間の1時間値が0.06ppmを超えた日数	日	52	77	78
昼間の1時間値が0.06ppmを超えた時間	時間	212	343	364
昼間の1時間値が0.12ppm以上の日数	日	2	4	1
昼間の1時間値が0.12ppm以上の時間	時間	4	7	1
昼間の1時間値の最高値	ppm	0.137	0.148	0.128
昼間の最高1時間値の年平均値	ppm	0.043	0.046	0.046
環境基準	○・×	×	×	×
光化学スモッグ予報発令回数	日/回	3	11	8
光化学スモッグ注意報発令回数	日/回	4	6	5
光化学スモッグ警報発令回数	日/回	0	0	0
光化学スモッグ注意報発令延べ時間数	時間	—	—	—
光化学スモッグ健康被害届出人数	人	0	0	0



光化学オキシダントの月間値（表 6 及び図 6-A・B 参照）をみると、5 月から 9 月ごろが高い数値を示している。これは、光化学オキシダントの発生が前述したように、大気が安定（特に夏期、日差しが強く、風の弱い日（4m/s）、気温が 24℃以上）している時期に光化学オキシダントが高くなる傾向にあるためである。

平成 26 年度 月間値 （表 6）

項 目／月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
昼間の測定日数 （日）	30	31	30	31	31	30	31	30	31	31	28	31
昼間の測定時間 （時間）	447	442	447	463	461	447	462	447	462	460	417	448
昼間の 1 時間値が 0.06ppm を超えた日数（日）	14	17	7	19	11	7	1	0	0	0	0	2
昼間の 1 時間値が 0.06ppm を 超えた時間（時間）	68	89	39	93	41	26	3	0	0	0	0	5
昼間の 1 時間値が 0.12ppm 以上の日数（日）	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0
昼間の 1 時間値が 0.12ppm 以上の時間（時間）	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0
昼間の 1 時間値の 最高値（ppm）	0.085	0.105	0.117	0.117	0.128	0.089	0.064	0.051	0.045	0.045	0.049	0.068
昼間の日最高 1 時間値の 月平均値（ppm）	0.060	0.064	0.049	0.070	0.053	0.052	0.039	0.028	0.024	0.031	0.036	0.045
昼間の 1 時間値の 月平均値（ppm）	0.042	0.046	0.032	0.041	0.028	0.033	0.024	0.016	0.014	0.020	0.023	0.032



(4) 窒素酸化物〔NO_x〕等の測定結果と評価

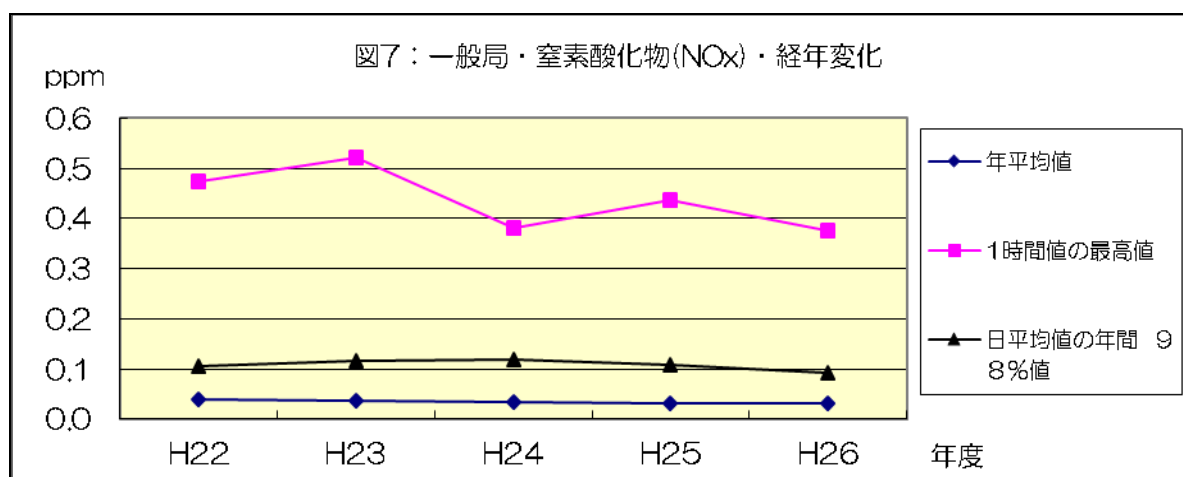
① 窒素酸化物〔NO_x〕

平成26年度の窒素酸化物の年間値（表7参照）については、年平均値が0.032ppm、1時間値の最高値が0.376ppmであり、前年度に比べると、年平均値は横ばい、1時間値の最高値は0.062ppmの減少となった。

過去5年間における経年変化（図7参照）をみると、年平均値が0.032～0.038ppm、1時間値の最高値が0.376～0.523ppmで推移し、横ばい傾向にある。

年間値及び経年変化（表7）

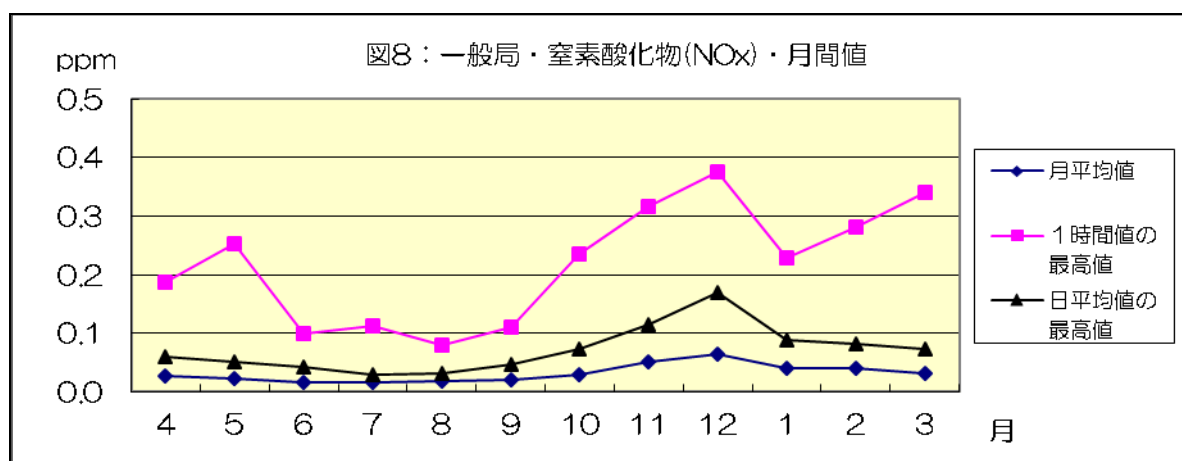
項 目	単位	24年度	25年度	26年度
有効測定日数	日	365	363	364
測定時間	時間	8,677	8,647	8,653
年平均値	ppm	0.034	0.032	0.032
1時間値の最高値	ppm	0.381	0.438	0.376
NO ₂ /（NO+ NO ₂ ）の平均値	%	58.0	59.4	61.3
日平均値の年間98%値	ppm	0.119	0.104	0.093



次に、月間値（表8及び図8参照）をみると、月平均値が0.015～0.065ppm、1時間値の最高値が0.079～0.376ppm、日平均値の最高値が0.030～0.170ppmで推移している。また、冬期に高い数値を示しているのがわかる。

平成26年度 月間値 （表8）

項目／月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
有効測定日数 (日)	30	31	30	30	31	30	31	30	31	31	28	31
測定時間 (時間)	713	735	713	724	735	713	737	709	737	735	665	737
月平均値 (ppm)	0.028	0.022	0.015	0.017	0.018	0.020	0.030	0.052	0.065	0.040	0.041	0.032
1時間値の最高値 (ppm)	0.188	0.254	0.100	0.112	0.079	0.111	0.236	0.317	0.376	0.229	0.282	0.340
日平均値の最高値 (ppm)	0.060	0.052	0.043	0.030	0.032	0.047	0.072	0.115	0.170	0.088	0.081	0.072
月平均値：NO ₂ ／ NO+NO ₂ (%)	71.4	78.7	82.9	81.0	74.5	73.4	64.7	51.2	45.1	55.0	56.2	65.2



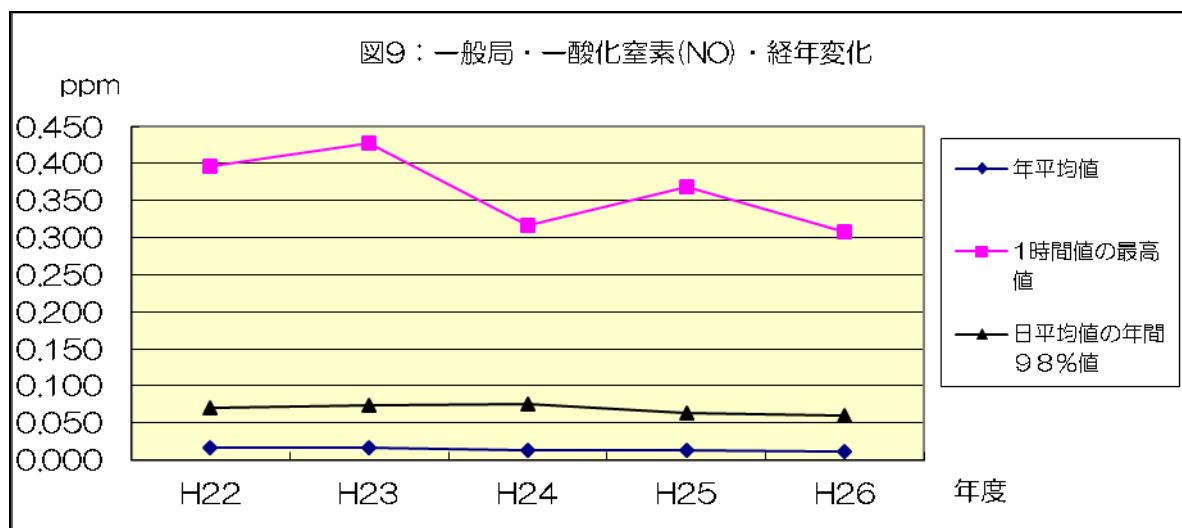
② 一酸化窒素〔NO〕

平成26年度の年間値（表9参照）については、年平均値が0.012ppm、1時間値の最高値が0.308ppmである。前年度と比較してみると、年平均値は0.001ppmの減少、1時間値の最高値は0.061ppmの減少であった。

過去5ヶ年間の経年変化（図9参照）をみると、年平均値が0.012～0.016ppm、1時間値の最高値が0.308～0.428ppmで推移しており、横ばい傾向にある。

年間値及び経年変化（表9）

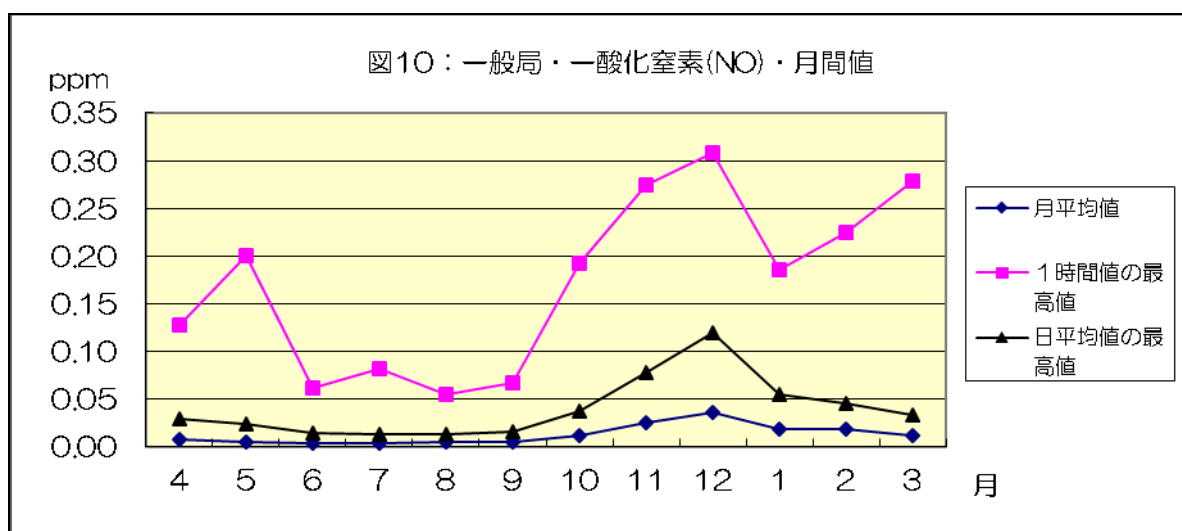
項 目	単位	24年度	25年度	26年度
有効測定日数	日	365	363	364
測定時間	時 間	8,677	8,647	8,653
年平均値	ppm	0.014	0.013	0.012
1時間値の最高値	ppm	0.316	0.369	0.308
日平均値の年間98％値	ppm	0.076	0.063	0.060



また、月間値（表 10 及び図 10 参照）をみると、月平均値が 0.003～0.036ppm、1 時間値の最高値が 0.055～0.308ppm、日平均値の最高値が 0.013～0.120ppm で推移している。
冬期に高い数値を示していることがわかる。

平成 26 年度 月間値 （表 10）

項目／月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
有効測定日数（日）	30	31	30	30	31	30	31	30	31	31	28	31
測定時間（時間）	713	735	713	724	735	713	737	709	737	735	665	737
月平均値（ppm）	0.008	0.005	0.003	0.003	0.005	0.005	0.011	0.025	0.036	0.018	0.018	0.011
1時間値の最高値（ppm）	0.128	0.200	0.062	0.081	0.055	0.067	0.192	0.274	0.308	0.186	0.224	0.279
日平均値の最高値（ppm）	0.029	0.024	0.014	0.013	0.013	0.016	0.037	0.077	0.120	0.055	0.045	0.039



③ 二酸化窒素〔NO₂〕

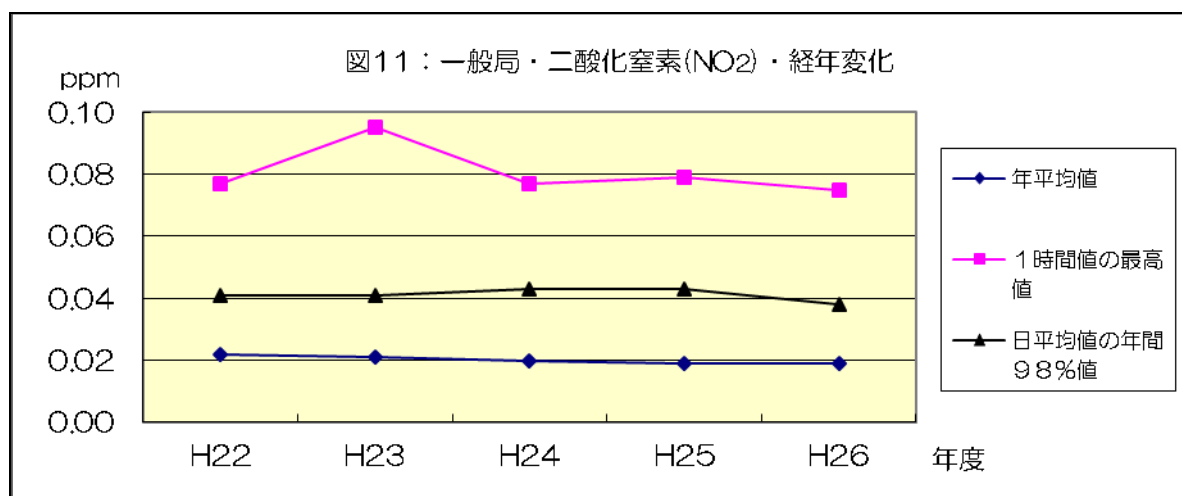
平成26年度の年間値（表 11 参照）については、年平均値が 0.019ppm、1 時間値の最高値が 0.075ppm、日平均値の年間 98%値が 0.038ppm である。前年度と比較すると、年平均値は増減なし、1 時間値の最高値は 0.004ppm の減少、日平均値の年間 98%値は 0.005 ppm の減少であった。

過去 5 ケ年間の経年変化（図 11 参照）をみると、年平均値が 0.019～0.022ppm、1 時間値の最高値が 0.075～0.095ppm、日平均値の年間 98%値が 0.038～0.043ppm で推移している。

環境基準の達成状況については、連続して達成し、大気中濃度は、着実に改善されている。

年間値及び経年変化 （表 11）

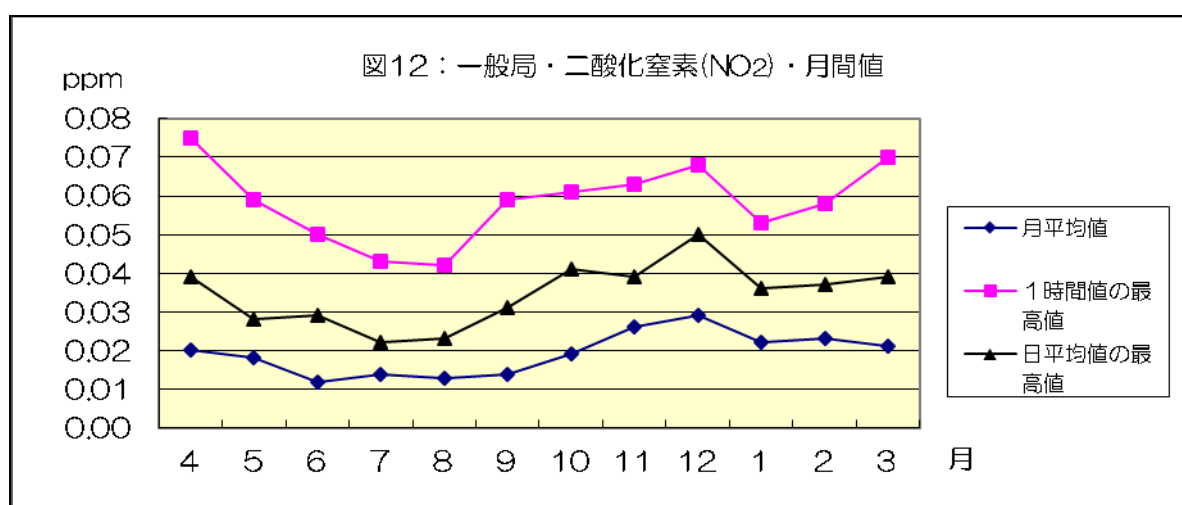
項 目	単位	24年度	25年度	26年度
有効測定日数	日	365	363	364
測定時間	時間	8,677	8,647	8,653
年平均値	ppm	0.020	0.019	0.019
1 時間値の最高値	ppm	0.077	0.079	0.075
1 時間値が 0. 2 ppm を超えた時間数	時間	0	0	0
1 時間値が 0. 1 ppm 以上 0. 2 ppm 以下の時間数	時間	0	0	0
日平均値が 0. 06 ppm を超えた日数	日	0	0	0
日平均値が 0. 04 ppm 以上 0. 06 ppm 以下の日数	日	16	16	3
日平均値の年間 98%値	ppm	0.043	0.043	0.038
98%値評価による日平均値が 0. 06 ppm を超えた日数	日	0	0	0
環境基準	○・×	○	○	○



また、月間値（表 12 及び図 12 参照）をみると、月平均値が 0.012～0.029ppm、1 時間値の最高値が 0.042～0.075ppm、日平均値の最高値が 0.022～0.050ppm で推移している。

平成 26 年度 月間値 （表 12）

項 目／月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
有効測定日数 （日）	30	31	30	30	31	30	31	30	31	31	28	31
測 定 時 間 （時間）	713	735	713	724	735	713	737	709	737	735	665	737
月 平 均 値 （ppm）	0.020	0.018	0.012	0.014	0.013	0.014	0.019	0.026	0.029	0.022	0.023	0.021
1時間値の最高値 （ppm）	0.075	0.059	0.050	0.043	0.042	0.059	0.061	0.063	0.068	0.053	0.058	0.070
日平均値の最高値 （ppm）	0.039	0.028	0.029	0.022	0.023	0.031	0.041	0.039	0.050	0.036	0.037	0.039
1時間値が0.2ppmを 超えた時間数（時間）	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
1時間値が0.1ppm以上 0.2ppm以下の時間数（時間）	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
日平均値が0.06ppmを 超えた日数（日）	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
日平均値が0.04ppm以上 0.06ppm以下の日数（日）	0	0	0	0	0	0	1	0	2	0	0	0



3 環境大気調査（フィルターバッチ方式）測定結果

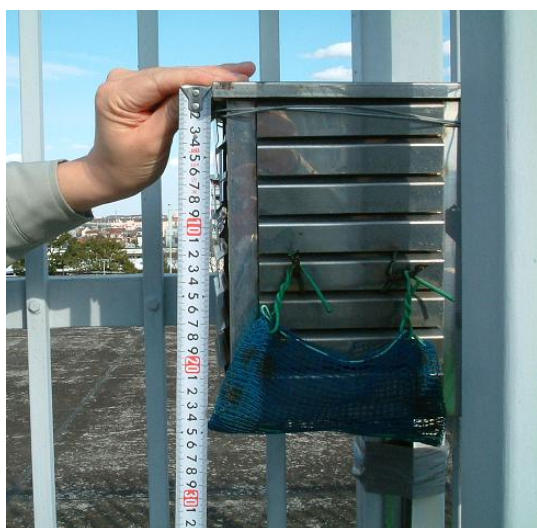
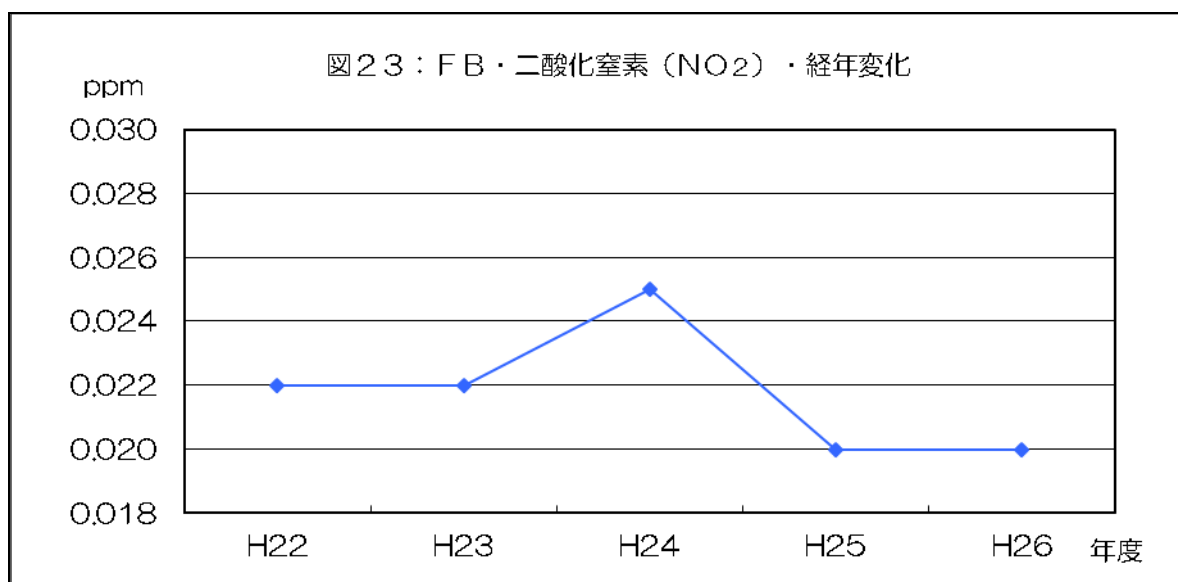
二酸化窒素〔NO₂〕の測定結果と評価

平成26年度の環境大気調査地点における二酸化窒素の年間値及び経年変化（表23及び図23参照）については、年間平均値0.020ppmであり、全体的には、付近に幹線道路や主要道路が通っている調査地点は高く、交通量の少ない道路の付近では低くなる傾向がみられる。

過去5ケ年における経年変化をみると、各調査地点の比較をしても大きな変化はみられなかった。

年間値（表23）

調査地点名	市立北公民館	高州3丁目 消防機具置場	年間平均値
測定値	0.016	0.024	0.020



フィルターバッチの収納箱



フィルターバッチに入っているフィルター

第3章 環境指標の把握と評価

第2節 水質汚濁



「環境フェスタみさと」環境ポスター展 河川環境賞 吹上小学校 滝澤 美紅 さん

第 2 節 水 質 汚 濁

1 環境基準等

(1) 環境基準値

① 公共用水域の環境基準と類型指定

水質汚濁に係る環境基準は、人の健康の保護に関する環境基準（表A）、および生活環境の保全に関する環境基準（表B）があり、前者は公共用水域に一律に定められており、後者は、河川、湖沼、流域ごとに利水目的に応じた水域類型を設けて定められている。

本市では、江戸川はA類型、中川はC類型に指定されていたが、平成 18 年 3 月に大場川がC類型に指定された。第二大場川は、類型は未指定である。

人の健康の保護に関する環境基準（表A）

改正 平成 23 年 10 月 27 日環境省告示

項 目	基 準 値	項 目	基 準 値
カ ド ミ ウ ム	0.003mg/ℓ以下	1, 1, 2-トリクロロエタン	0.006mg/ℓ以下
全 シ ア ン	検出されないこと	トリクロロエチレン	0.03mg/ℓ以下
鉛	0.01mg/ℓ以下	テトラクロロエチレン	0.01mg/ℓ以下
六 価 ク ロ ム	0.05mg/ℓ以下	1, 3-ジクロロプロペン	0.002mg/ℓ以下
ヒ 素	0.01mg/ℓ以下	チ ウ ラ ム	0.006mg/ℓ以下
総 水 銀	0.0005mg/ℓ以下	シ マ ジ ン	0.003mg/ℓ以下
ア ル キ ル 水 銀	検出されないこと	チ オ ベ ン カ ル ブ	0.02mg/ℓ以下
P C B	検出されないこと	ベ ン ゼ ン	0.01mg/ℓ以下
ジ ク ロ ロ メ タ ン	0.02mg/ℓ以下	セ レ ン	0.01mg/ℓ以下
四 塩 化 炭 素	0.002mg/ℓ以下	硝酸性窒素及び亜硝酸性窒素	10mg/ℓ以下
1, 2-ジクロロエタン	0.004mg/ℓ以下	ふ っ 素	0.8mg/ℓ以下
1, 1-ジクロロエチレン	0.1mg/ℓ以下	ほ う 素	1mg/ℓ以下
シス-1, 2-ジクロロエチレン	0.04mg/ℓ以下	1, 4-ジ オ キ サ ン	0.05mg/ℓ以下
1, 1, 1-トリクロロエタン	1mg/ℓ以下		
対 象 水 域	全公共用水域		
達 成 期 限	直ちに達成し、維持するように努める。		

- 備考 1. 基準値は年間平均値とする。ただし、全シアンに係る基準値については、最高値とする。
 2. 「検出されないこと」とは、測定方法の欄に掲げる方法により測定した場合において、その結果が当該方法の定量限界を下回ることをいう。

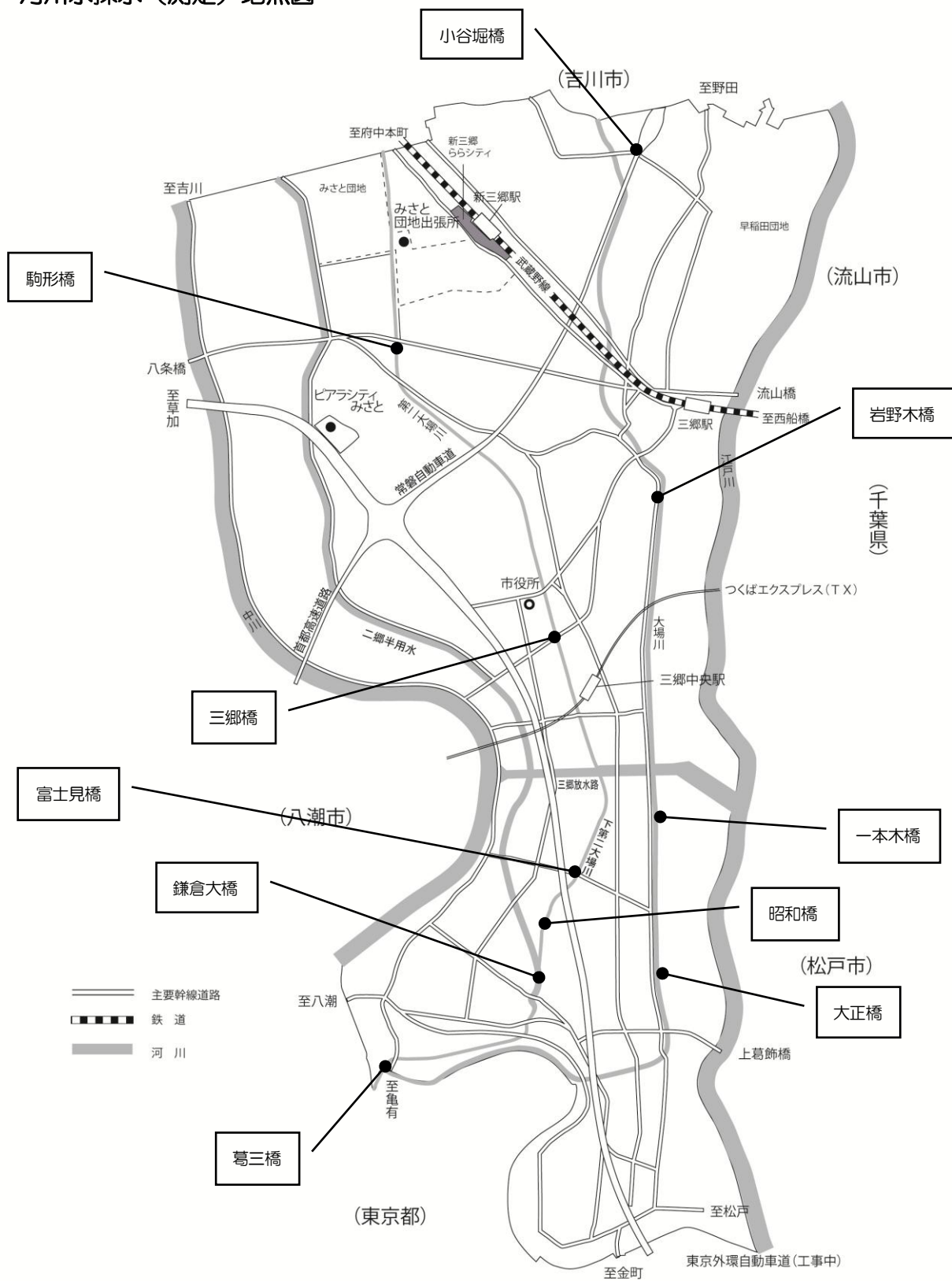
生活環境の保全に関する環境基準（河川）（表B）

項目 類型	利用目的の 適 応 性	基 準 値				
		水素イオン 濃度（pH）	生物化学的酸素 要求量（BOD）	浮遊物質 量（SS）	溶存酸素量 （DO）	大腸菌群数
AA	水道1級 自然環境保全及び A以下の欄に掲げるもの	6.5 以上 8.5 以下	1mg/ℓ以下	25mg/ℓ以下	7.5mg/ℓ以上	50MPN/ 100ℓ以下
A	水道2級・水産1級 水浴及びB以下の 欄に掲げるもの	6.5 以上 8.5 以下	2mg/ℓ以下	25mg/ℓ以下	7.5mg/ℓ以上	1,000MPN/ 100ℓ以下
B	水道3級 水産2級及びC以下の 欄に掲げるもの	6.5 以上 8.5 以下	3mg/ℓ以下	25mg/ℓ以下	5mg/ℓ以上	5,000MPN/ 100ℓ以下
C	水産3級 工業用水1級及び D以下の欄に掲げるもの	6.5 以上 8.5 以下	5mg/ℓ以下	50mg/ℓ以下	5mg/ℓ以上	—
D	工業用水2級 農業用水及びE以下の 欄に掲げるもの	6.0 以上 8.5 以下	8mg/ℓ以下	100mg/ℓ以下	2mg/ℓ以上	—
E	工業用水3級 環境保全	6.0 以上 8.5 以下	10mg/ℓ以下	ごみ等の浮遊が 認められないこと	2mg/ℓ以上	—

- 注 1. 基準値は、日間平均値とする。
2. 農業利用水点については、水素イオン濃度（pH）6.0以上、7.5以下、溶存酸素量（DO）5mg/ℓ以上とする。
3. 自然環境保全：自然探勝等の環境保全
4. 水道1級：ろ過等による簡単な浄水操作を行うもの
水道2級：沈でろ過等による通常の浄水操作を行うもの
水道3級：前処理等を伴う高度の浄水操作を行うもの
5. 水産1級：ヤマメ、イワナ等貧腐水性水域の水産生物用並びに水産2級及び水産3級の水産生物用
水産2級：サケ科魚類及びアユ等貧腐水性水域の水産生物用並びに水産2級の水産生物用
水産3級：コイ、フナ等β-中腐水性水域の水産生物用
6. 工業用水1級：沈でろ等による通常の浄化操作を行うもの
工業用水2級：薬品注入等による高度の浄化操作を行うもの
工業用水3級：特殊の浄化操作を行うもの
7. 環境保全：国民の日常生活（沿岸の遊歩等を含む）において不快感を生じない限度

- 備考 1. 環境基準によるBOD値評価
75%値とは、分析件数/年×0.75＝75%値である。従って、年間6回の調査分析を行なった場合は、1番低い値から高い値順にみて、5番目の分析結果値で、環境基準の適合又は不適合を判定評価する。
2. 測定方法
環境庁告示方法及びJIS（規格）K0102等により行う。

(2) 河川水採水（測定）地点図



2 水質汚濁の概要

(1) 河川水の測定結果と評価

平成26年度における河川水の測定地点別の年間値をみると、定期項目（表25及び図25-1参照）では、pH〔水素イオン濃度〕が7.5～7.6であり、あまり差はみられなかった。SS〔浮遊物質〕は16.7～40.3mg/ℓであり、前年度（16.2～34.5mg/ℓ）と比較すると増加した。BOD〔生物化学的酸素要求量〕（75%値）は4.2～5.8mg/ℓであった。DO〔溶存酸素量〕は4.2～7.4mg/ℓで、前年度（3.7～7.7mg/ℓ）に比べると数値はやや減少した。MBAS〔陰イオン界面活性剤〕は0.06～0.1mg/ℓで、前年度（0.09～0.11mg/ℓ）とあまり差はみられなかった。

測定点について前年度と比較すると、SSは9箇所が増加し1箇所で減少した。BOD（75%値）は7箇所が増加し3箇所で減少した。DOについては、7箇所が増加し3箇所で減少した。MBASは全箇所であまり変動が見られなかった。

平成26年度の不定期項目（表26参照）については、全項目・全測定地点で問題になるような数値にはなっていない。なお、不定期項目のうち、有害物質については、全ての測定地点であまり変動はなく、問題になる測定地点及び項目はない。

環境基準との対比については、大場川はC類型で（平成18年3月24日付）、第二大場川、下第二大場川は類型未指定である。仮に、共にC類型として評価すると、BODが1箇所とDOが2箇所で基準を未達成であるが、その他は達成されている。

※実績値(未達成÷40-1)

○ 年間値及び経年変化

定期項目〔単位：mg/ℓ、ただしpHを除く〕（表25）

河川名／項目／年度			23年度	24年度	25年度	26年度
大 場 川	小谷堀橋	pH	7.3	7.4	7.5	7.5
		SS	22.9	25.3	24.6	26.8
		BOD（平均値）	3.2	3.9	4.2	4.8
		BOD（75%）	3.4	4.2	4.7	5.1
		DO	6.9	7.0	7.7	7.4
		MBAS	0.10	0.11	0.10	0.08
		透視度	21.8	20.9	23.3	22.8
	岩野木橋	pH	7.4	7.4	7.6	7.6
		SS	21.3	22.9	18.6	21.3
		BOD（平均値）	3.5	3.7	4.3	5.1
		BOD（75%）	4.0	3.9	5.4	5.8
		DO	6.6	5.9	7.0	7.3
		MBAS	0.10	0.09	0.10	0.07
		透視度	23.8	23.8	28.5	27.4
	一本木橋	pH	7.5	7.4	7.5	7.5
		SS	21.6	20.5	23.6	19.6
		BOD（平均値）	3.5	4.2	4.1	5.2
		BOD（75%）	4.0	4.7	4.8	5.6
		DO	6.1	5.6	6.3	6.1
		MBAS	0.11	0.11	0.09	0.07
		透視度	25.2	27.4	30.5	16.4
	大正橋	pH	7.4	7.3	7.5	7.5



			SS	23.7	15.9	16.6	18.3
			BOD (平均値)	4.1	4.1	3.8	4.5
			BOD (75%)	4.0	4.8	4.7	5.5
			DO	5.7	5.7	5.6	5.9
			MBAS	0.11	0.09	0.09	0.09
			CN	不検出	不検出	不検出	不検出
			透視度	26.9	30.6	37.0	4.5
	葛三橋		pH	7.5	7.3	7.5	7.5
			SS	28.0	14.1	16.6	16.7
			BOD (平均値)	3.4	4.0	3.7	4.2
			BOD (75%)	3.8	4.2	4.4	4.2
			DO	5.7	6.8	6.6	7.2
			MBAS	0.10	0.06	0.07	0.06
			透視度	26.9	33.8	39.4	21.2
第二大場川・下第二大場川	駒形橋		pH	7.6	7.6	7.5	7.6
			SS	24.0	31.0	28.4	32.7
			BOD (平均値)	3.2	3.9	4.3	5.2
			BOD (75%)	4.2	4.4	5.1	4.9
			DO	7.9	8.7	6.0	6.7
			MBAS	0.15	0.10	0.09	0.07
			透視度	21.3	20.7	27.1	23.9
	三郷橋		pH	7.6	7.5	7.6	7.5
			SS	26.2	25.7	16.2	21.5
			BOD (平均値)	3.9	3.8	4.1	4.6
			BOD (75%)	4.4	4.4	4.6	4.9
			DO	6.7	6.9	6.2	6.3
			MBAS	0.09	0.08	0.09	0.07
			透視度	20.9	22.8	29.4	27.2
	鎌倉大橋		pH	7.4	7.3	7.5	7.5
			SS	42.9	26.5	21.0	28.3
			BOD (平均値)	4.0	4.1	4.4	4.8
			BOD (75%)	4.5	4.5	5.4	4.7
			DO	4.43	4.8	5.7	5.2
			MBAS	0.14	0.10	0.11	0.08
			CN	不検出	不検出	不検出	不検出
			透視度	23.6	29.6	33.2	30.2
	昭和橋		pH		7.3	7.4	7.5
			SS		31.1	34.5	37.3
			BOD (平均値)		4.1	4.3	4.9
			BOD (75%)		4.9	4.8	5.4
			DO		4.1	4.3	4.6
			MBAS		0.10	0.10	0.08
			透視度		26.9	28.7	23.7
	富士見橋		pH		7.3	7.4	7.5
			SS		40.9	34.2	40.3
			BOD (平均値)		4.5	4.6	5.0
			BOD (75%)		4.8	5.6	5.7
			DO		6.9	3.7	4.2
			MBAS		0.20	0.11	0.10
			透視度		26.8	29.4	26.1

図25-1-A：平成26年度地点別年間値
(pH)

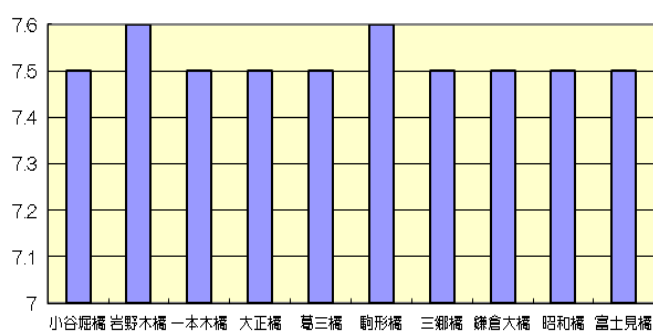


図25-1-B：平成26年度地点別年間値
(SS)

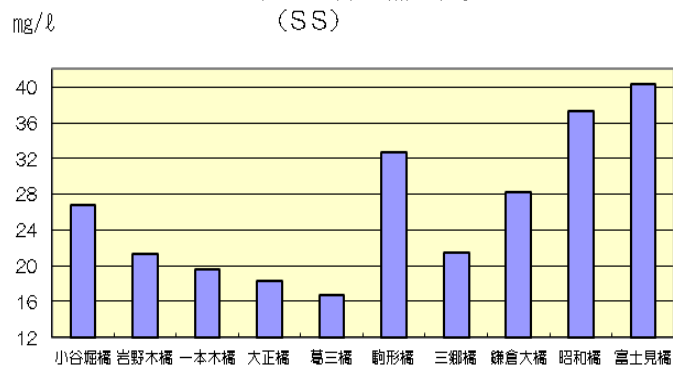


図25-1-C：平成26年度地点別年間値
(BOD・平均値)

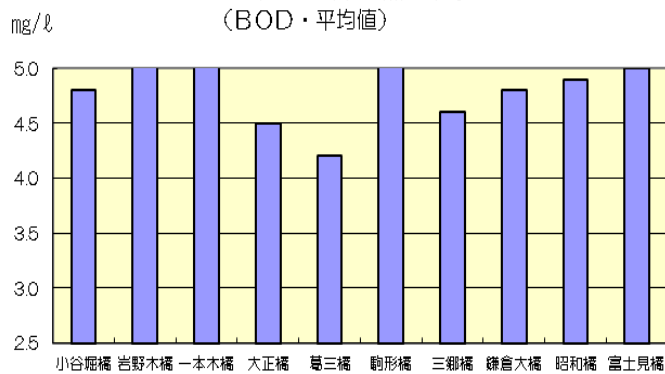


図25-1-D：平成26年度地点別年間値
(BOD・75%値)

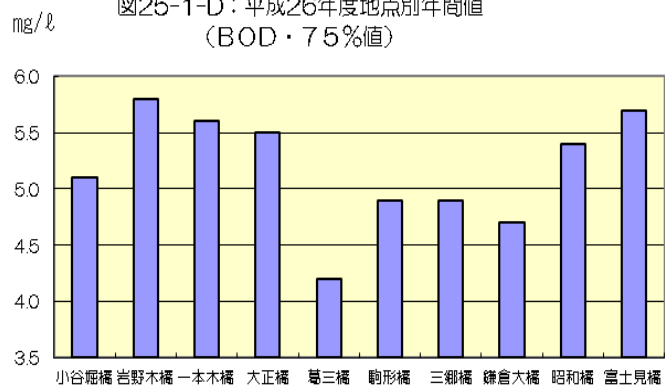


図25-1-E：平成26年度地点別年間値
(DO)

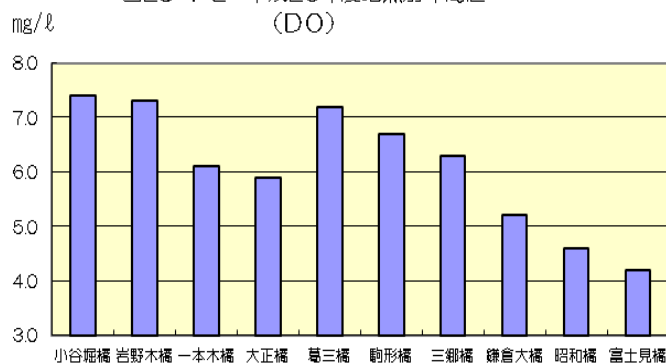
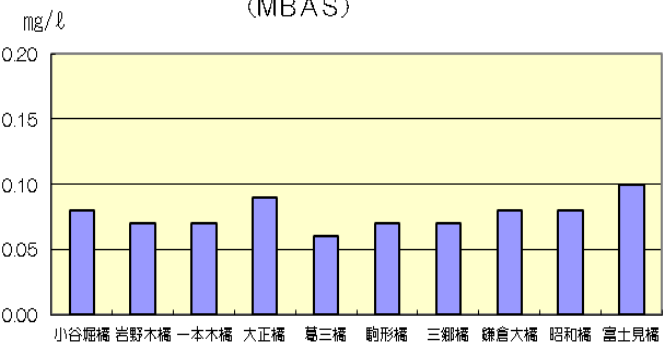
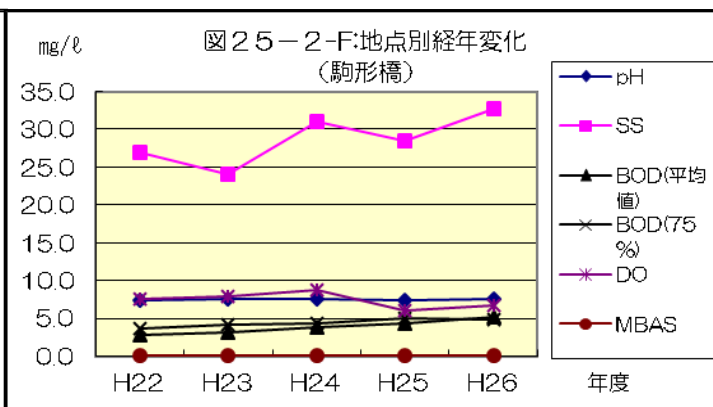
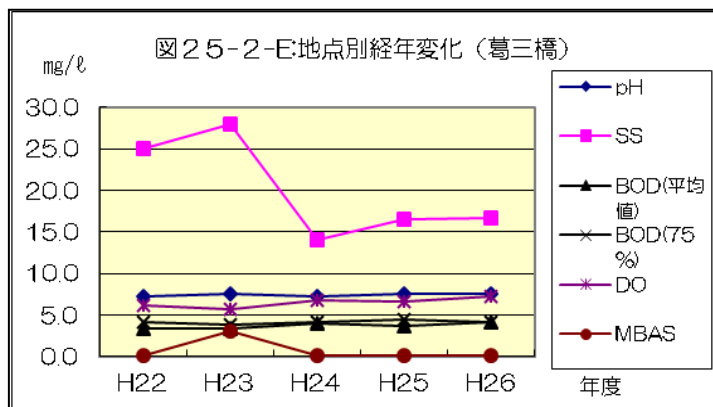
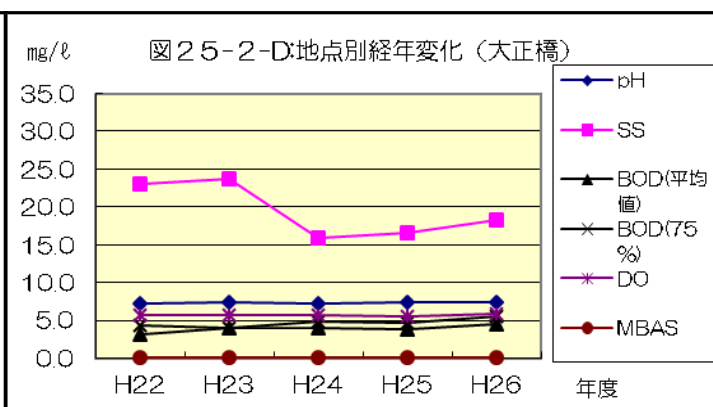
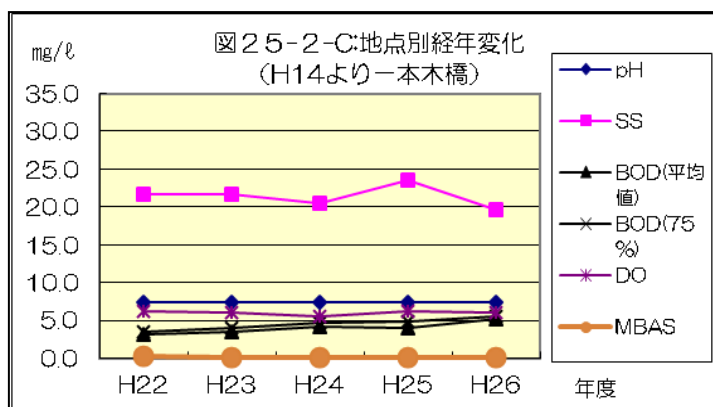
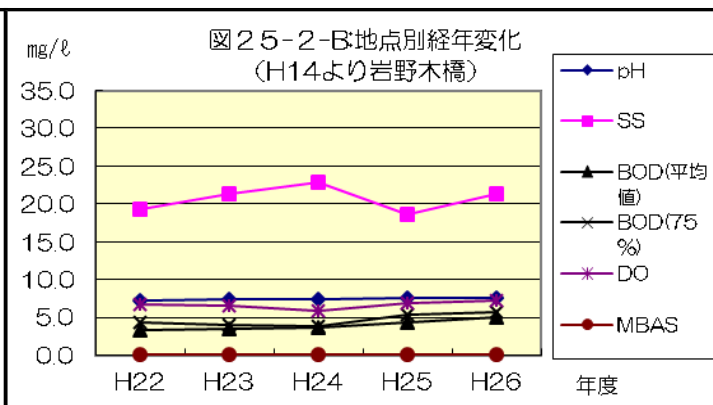
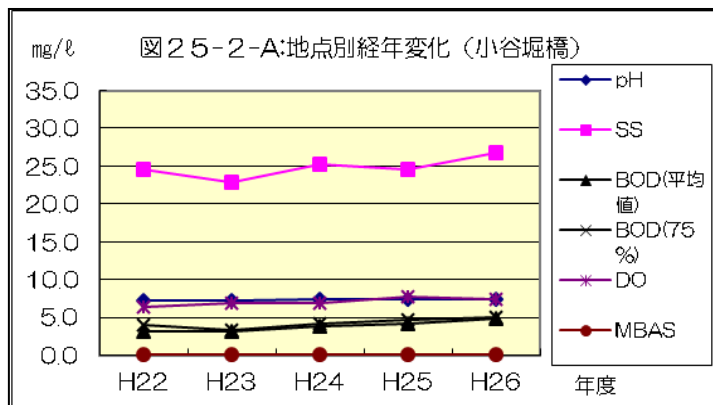
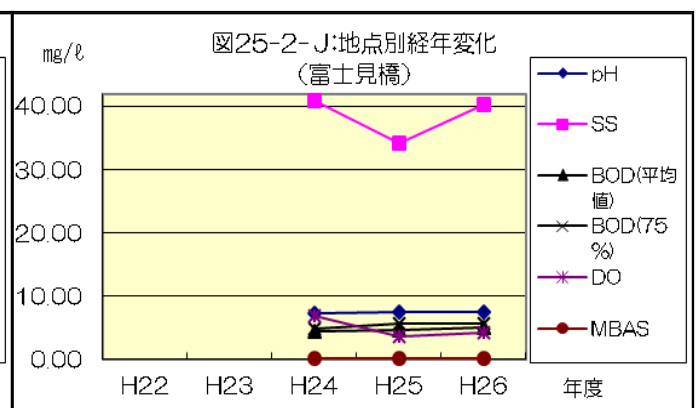
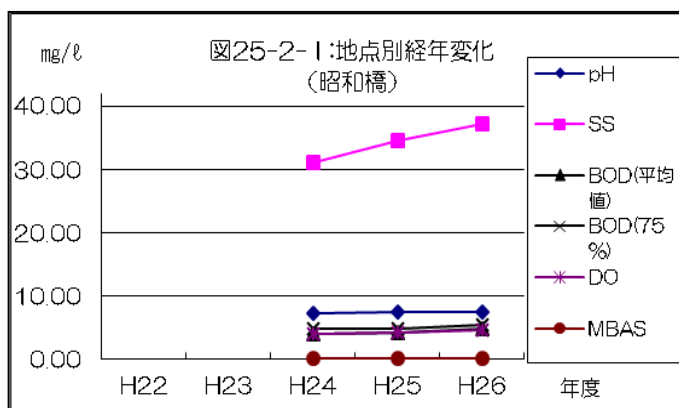
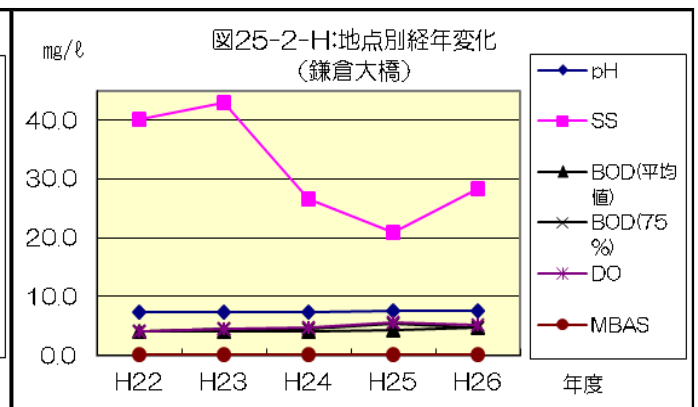
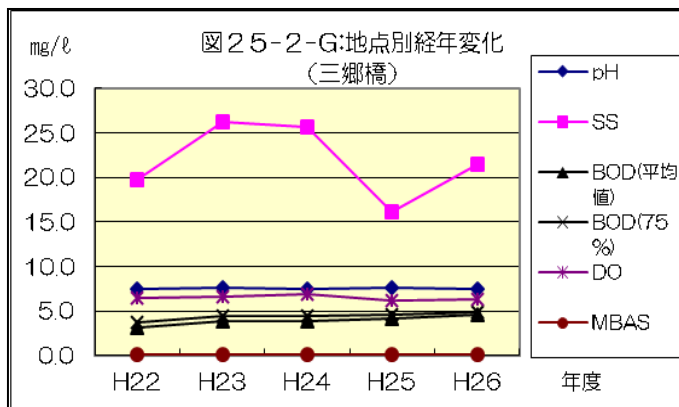


図25-1-F：平成26年度地点別年間値
(MBAS)







不定期項目〔単位：mg／ℓ、大腸菌群数：MPN／100ml〕（表 26－A）・・・大場川系

項目／河川／年度	大正橋			小谷堀橋			一本木橋		
	24年度	25年度	26年度	24年度	25年度	26年度	24年度	25年度	26年度
大 腸 菌 群 数	173180	5100	9366	200690	9842	7208	198400	13083	11833
ノルマルヘキサン抽出物質	<2.5	<2.5	<0.5						
全窒素（T－N）	3.2	4.4	5.9						
全リン（T－P）	0.18	0.23	0.19						
カドミウム	<0.005	<0.0005	<0.0005						
有機リン	不検出	<0.10	<0.10						
鉛（Pb）	<0.001	<0.001	<0.001	0.002	0.004	0.002	0.001	<0.001	<0.001
六価クロム	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005
ヒ素（As）	<0.001	<0.001	0.001	0.002	0.001	0.001	0.001	<0.001	0.001
総水銀	<0.0005	<0.0005	<0.0005						
アルキル水銀	不検出	不検出	不検出						
ポリ塩化ビフェニール	不検出	不検出	不検出						
ジクロロメタン	<0.002	<0.002	<0.002						
四塩化炭素	<0.0002	<0.0002	<0.0002						
1,2-ジクロロエタン	<0.0004	<0.0004	<0.0004						
1,1-ジクロロエチレン	<0.002	<0.002	<0.002						
シス-1,2ジクロロエチレン	<0.001	<0.004	<0.004						
1,1,1-トリクロロエタン	<0.001	<0.10	<0.10						
1,1,2-トリクロロエタン	<0.0006	<0.0006	<0.0006						
トリクロロエチレン	<0.001	<0.003	<0.003						
テトラクロロエチレン	<0.001	<0.001	<0.001						
1,3-ジクロロプロペン	<0.0002	<0.0002	<0.0002						
チウラム	<0.0006	<0.0006	<0.0006	<0.0006	<0.0006	<0.0006			
シマジン	<0.0003	<0.0003	<0.0003	<0.0003	<0.0003	<0.0003			
チオベンカルブ	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002			
ベンゼン	<0.001	<0.001	<0.001						
セレン	<0.001	<0.001	<0.001						
銅（Cu）	<0.10	<0.10	<0.10	<0.10	<0.10	<0.01	<0.10	<0.10	<0.01
亜鉛（Zn）	0.018	0.019	0.018	0.016	0.029	0.012	0.016	0.018	0.022
溶解性鉄	<1.0	<1.0	<1.0						
溶解性マンガン	<1.0	<1.0	<1.0						
全クロム	<0.10	<0.10	<0.10						
フッ素	0.15	0.17	0.16						
ほう素	0.16	0.21	0.16						
アンモニア性窒素	2.0	2.6	3.3	1.1	0.9	1.5	1.4	2.7	4.4

不定期項目〔単位：mg／ℓ、大腸菌群数：MPN／100ml〕（表 26－B）・・・大場川系

項目／河川／年度	岩野木橋			葛三橋		
	24年度	25年度	26年度	24年度	25年度	26年度
大 腸 菌 群 数	111290	20975	7691	45760	8583	3441
ノルマルヘキサン抽出物質						
全窒素（T－N）						
全リン（T－P）						
カ ド ミ ウ ム						
鉛（Pb）	0.004	0.003	0.001	<0.001	<0.001	0.002
六 価 ク ロ ム	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005
ひ 素（As）	0.001	0.001	0.001	0.001	<0.001	0.003
銅（Cu）	<0.10	<0.10	<0.01	<0.10	<0.10	<0.01
亜 鉛（Zn）	0.018	0.025	0.020	0.013	0.010	0.026
アンモニア性窒素	1.1	1.8	3.5	1.3	1.2	1.6

不定期項目〔単位：mg／ℓ、大腸菌群数：MPN／100ml〕（表26-C）…第二大場川系

項目／河川／年度	駒形橋			三郷橋			鎌倉大橋		
	24年度	25年度	26年度	24年度	25年度	26年度	24年度	25年度	26年度
大腸菌群数	465200	31692	13783	752300	27917	14625	177100	14467	12150
ノルマルヘキサン抽出物質							<2.5	<2.5	<0.5
全窒素（T-N）							3.1	4.4	6.2
全リン（T-P）							0.17	0.24	0.21
カドミウム							<0.0005	<0.0005	<0.0005
有機リン							不検出	<0.10	<0.10
鉛（Pb）	0.002	0.003	0.001	0.003	0.001	0.002	<0.001	0.001	0.001
六価クロム	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005
砒素（As）	0.002	0.002	0.001	0.002	<0.001	0.001	0.001	<0.001	0.001
総水銀							<0.0005	<0.0005	<0.0005
アルキル水銀							不検出	不検出	不検出
ポリ塩化ビフェニール							不検出	不検出	不検出
ジクロロメタン							<0.002	<0.002	<0.002
四塩化炭素							<0.0002	<0.0002	<0.0002
1, 2-ジクロロエタン							<0.0004	<0.0004	<0.0004
1, 1-ジクロロエチレン							<0.002	<0.002	<0.002
シス-1, 2ジクロロエチレン							<0.001	<0.004	<0.004
1, 1, 1-トリクロロエタン							<0.001	<0.10	<0.10
1, 1, 2-トリクロロエタン							<0.0006	<0.0006	<0.0006
トリクロロエチレン							<0.001	<0.003	<0.003
テトラクロロエチレン							<0.001	<0.001	<0.001
1, 3-ジクロロプロペン							<0.0002	<0.0002	<0.0002
チウラム							<0.0006	<0.0006	<0.0006
シマジン							<0.0003	<0.0003	<0.0003
チオベンカルブ							<0.002	<0.002	<0.002
ベンゼン							<0.001	<0.001	<0.001
セレン							<0.001	<0.001	<0.001
銅（Cu）	<0.10	<0.10	<0.01	<0.10	<0.10	<0.01	<0.10	<0.01	<0.01
亜鉛（Zn）	0.020	0.030	0.015	0.038	0.029	0.049	0.026	0.026	0.021
溶解性鉄							<1.0	<1.0	<1.0
溶解性マンガン							<1.0	<1.0	<1.0
全クロム							<0.10	<0.01	<0.01
フッ素							0.12	0.17	0.17
ほう素							0.15	0.20	0.17
アンモニア性窒素	0.6	0.8	2.1	0.4	6.3	8.4	1.8	2.5	3.7

平成26年度 月間値 [単位：mg/ℓ、ただしpHを除く] (表27)

河川名／項目／年度			4月	5月	6月	7月	8月	9月
大場川	小谷堀橋	pH	7.7	7.3	7.4	7.7	7.2	7.6
		SS	49.0	35.0	21.0	41.0	34.0	23.0
		BOD	11.0	3.5	3.1	6.9	4.1	3.8
		DO	12.6	6.1	6.8	8.8	5.5	3.9
		MBAS	0.02	0.02	<0.02	<0.02	<0.02	0.03
	岩野木橋	pH	8.5	7.4	7.5	7.8	7.3	7.6
		SS	52.0	22.0	17.0	23.0	27.0	12.0
		BOD	10.0	3.3	3.4	9.2	3.6	3.0
		DO	18.6	5.6	5.6	8.9	5.8	3.9
		MBAS	<0.02	<0.02	<0.02	<0.02	<0.02	0.03
	一本木橋	pH	8.2	7.6	7.5	7.6	7.2	7.5
		SS	49.0	13.0	19.0	24.0	24.0	7.9
		BOD	11.0	3.1	4.5	8.0	4.0	2.9
		DO	16.1	4.2	5.0	5.9	4.5	2.4
		MBAS	<0.02	0.02	0.02	<0.02	<0.02	<0.02
	大正橋	pH	8.0	7.5	7.4	7.5	7.3	7.4
		SS	54.0	8.6	14.0	18.0	24.0	12.0
		BOD	9.1	2.7	2.6	6.1	2.8	3.8
		DO	13.3	4.3	4.5	4.0	4.1	3.4
		MBAS	<0.02	0.02	<0.02	<0.02	<0.02	<0.02
	葛三橋	pH	7.7	7.5	7.3	7.5	7.4	7.4
		SS	32.0	11.0	18.0	18.0	26.0	15.0
		BOD	9.1	4.2	2.3	4.8	3.2	4.1
		DO	10.9	6.1	5.1	6.4	4.6	4.6
		MBAS	<0.02	<0.02	<0.02	<0.02	<0.02	<0.02
第二天場川・下第二天場川	駒形橋	pH	7.8	7.6	7.5	7.6	7.3	7.4
		SS	69.0	23.0	38.0	40.0	34.0	36.0
		BOD	7.9	4.9	3.6	4.6	4.7	4.2
		DO	12.0	4.6	6.2	6.6	4.0	3.5
		MBAS	0.04	0.03	<0.02	<0.02	<0.02	<0.02
	三郷橋	pH	7.4	7.5	7.6	7.8	7.4	7.7
		SS	12.0	21.0	22.0	35.0	23.0	21.0
		BOD	6.8	4.0	4.9	5.3	4.6	4.1
		DO	5.9	5.3	7.3	7.0	5.2	4.1
		MBAS	0.03	0.03	<0.02	<0.02	<0.02	<0.02
	鎌倉大橋	pH	7.9	7.5	7.4	7.5	7.2	7.4
		SS	76.0	35.0	27.0	36.0	43.0	23.0
		BOD	10.0	3.4	2.8	4.6	2.8	4.6
		DO	11.7	3.7	3.9	3.9	2.8	2.8
		MBAS	0.03	0.03	<0.02	<0.02	<0.02	<0.02
	昭和橋	pH	7.7	7.5	7.4	7.5	7.3	7.5
		SS	67.0	56.0	52.0	51.0	46.0	42.0
		BOD	11.0	4.0	2.8	5.9	3.3	4.4
		DO	9.8	3.7	3.2	2.9	2.7	2.5
		MBAS	0.05	0.05	<0.02	<0.02	<0.02	0.03
	富士見橋	pH	7.7	7.4	7.4	7.5	7.2	7.5
		SS	130.0	39.0	29.0	28.0	50.0	26.0
		BOD	9.9	3.9	3.3	4.9	3.5	3.1
		DO	8.1	2.5	2.4	3.5	2.2	2.2
		MBAS	0.08	0.05	0.04	<0.02	<0.02	0.03

平成26年度 月間値 [単位：mg/ℓ、ただしpHを除く] (表27)

河川名／項目／年度			10月	11月	12月	1月	2月	3月
大場川	小谷堀橋	pH	7.6	7.8	7.3	7.5	7.6	7.4
		SS	20.0	23.0	21.0	13.0	16.0	25.0
		BOD	3.4	5.3	3.0	4.0	5.1	3.8
		DO	5.6	6.6	7.2	9.5	7.9	8.4
		MBAS	0.04	0.11	0.16	0.19	0.22	0.19
	岩野木橋	pH	7.6	7.7	7.4	7.4	7.5	7.4
		SS	11.0	13.0	16.0	15.0	18.0	30.0
		BOD	2.9	3.8	4.7	5.8	6.8	4.9
		DO	4.4	5.1	6.8	7.7	8.3	7.0
		MBAS	0.02	0.05	0.09	0.17	0.20	0.18
	一本木橋	pH	7.6	7.7	7.4	7.3	7.5	7.4
		SS	9.8	12.0	16.0	13.0	19.0	29.0
		BOD	2.8	5.6	3.9	5.2	6.8	4.4
		DO	3.7	3.8	6.7	6.1	7.9	6.5
		MBAS	0.02	0.06	0.08	0.16	0.25	0.22
	大正橋	pH	7.5	7.6	7.4	7.4	7.6	7.4
		SS	8.6	12.0	14.0	13.0	17.0	24.0
		BOD	2.4	4.5	3.7	5.5	5.7	4.5
		DO	4.3	3.7	5.9	6.8	9.6	6.5
		MBAS	0.02	0.08	0.14	0.26	0.25	0.21
	葛三橋	pH	7.5	7.7	7.4	7.4	7.5	7.5
		SS	12.0	13.0	11.0	13.0	14.0	17.0
		BOD	2.6	4.0	3.1	4.0	5.2	4.1
		DO	6.0	6.7	8.4	9.5	10.0	8.1
		MBAS	<0.02	0.04	0.08	0.12	0.18	0.16
第二大場川・下第二大場川	駒形橋	pH	7.7	7.8	8.0	7.7	7.6	7.6
		SS	48.0	25.0	24.0	7.2	8.9	39.0
		BOD	4.3	6.0	4.5	4.7	8.0	4.4
		DO	5.2	4.1	9.5	10.0	6.6	8.1
		MBAS	0.08	0.04	0.07	0.16	0.18	0.17
	三郷橋	pH	7.4	7.7	7.7	7.2	7.4	7.6
		SS	14.0	35.0	26.0	14.0	14.0	21.0
		BOD	3.7	3.0	4.5	4.9	4.9	4.2
		DO	5.3	5.8	7.9	7.3	7.1	7.5
		MBAS	0.06	0.04	0.09	0.14	0.24	0.16
	鎌倉大橋	pH	7.5	7.6	7.4	7.4	7.5	7.4
		SS	10.0	12.0	12.0	12.0	23.0	31.0
		BOD	3.4	4.7	4.2	5.7	6.9	4.6
		DO	3.9	3.1	6.0	6.3	7.9	6.1
		MBAS	0.05	0.08	0.16	0.24	0.22	0.18
	昭和橋	pH	7.5	7.8	7.4	7.4	7.5	7.4
		SS	22.0	31.0	14.0	13.0	20.0	33.0
		BOD	3.2	4.4	4.5	5.4	6.2	4.1
		DO	3.7	3.0	4.7	6.1	6.7	5.6
		MBAS	0.04	0.09	0.12	0.16	0.23	0.20
	富士見橋	pH	7.5	7.8	7.4	7.5	7.4	7.3
		SS	48.0	59.0	13.0	13.0	17.0	32.0
		BOD	3.4	5.7	4.9	6.5	6.5	4.5
		DO	3.2	2.9	4.9	6.5	5.6	5.9
		MBAS	0.04	0.06	0.10	0.32	0.28	0.26

(2) 河川底質の測定結果と評価

平成 26 年度における河川底質の調査をした結果は以下のとおりである。
特に、問題となる数値は見られなかった。

[単位、含水率、強熱減量：％ それ以外：mg/kg] (表 28)

調査地点 項目	仁蔵橋			大場川橋			茂沢橋		
	24年度	25年度	26年度	24年度	25年度	26年度	24年度	25年度	26年度
T-Hg (総水銀)	0.18	0.12	0.12	0.05	0.05 未満	0.04	0.16	0.07	0.05
A- Hg (アルキル水銀)	不検出	不検出	不検出	不検出	不検出	不検出	不検出	不検出	不検出
Cd (カドミウム)	1.6	0.6	0.9	0.4	0.5 未満	0.5 未満	1.4	0.6	0.5 未満
Pb (鉛)	83	32	45	14	11	19	79	29	17
Cu (銅)	30	85	120	9.8	20	23	27	83	69
Cr ⁶⁺ (六価クロム)	2.5 未満	2.5 未満	2.5 未満	2.5 未満	2.5 未満	2.5 未満	2.5 未満	2.5 未満	2.5 未満
As (砒素)	5.5	17	19	2.4	18	11	3.5	9.8	7.7
CN (シアン)	0.5 未満	0.5 未満	1 未満	0.5 未満	0.5 未満	1 未満	0.5 未満	0.5 未満	1 未満
PCB (ポリ塩化ビニフェル)	0.05 未満	0.05 未満	0.01 未満	0.05 未満	0.05 未満	0.01 未満	0.05 未満	0.05 未満	0.01 未満
O- P (有機リン)	0.5 未満	0.5 未満	0.5 未満	0.5 未満	0.5 未満	0.5 未満	0.5 未満	0.5 未満	0.5 未満
T-cr(全クロム)	92	51	69	65	40	45	84	46	36
含水率	51.6	53.1	40.2	27.9	29.5	29.0	45.2	36.8	27.5
強熱減量	11.4	11.9	8.5	1.7	2.0	2.8	8.6	5.0	4.1
油分	280	280	0.36	30	30	0.11	350	150	0.53



市排水路から油や生物膜が第二大場川に流入しないよう吸着マットで流出防止

第3章 環境指標の把握と評価

第3節 騒音・振動



「環境フェスタみさと」環境ポスター展 東京ガス株式会社東部支店長賞 高州小学校 鈴木 百萌 さん

第 3 節 騒 音 ・ 振 動

1 環境基準等

(1) 環境基準値

○ 一般地域の環境基準

地域の区分		時間の区分 昼 間 (6:00~22:00)	夜 間 (22:00~6:00)
A A 地域	療養施設、社会福祉施設等が集合して設置される地域など特に静穏を要する地域	50dB以下	40dB以下
A 地域	第1種低層住居専用地域 第2種低層住居専用地域 第1種中高層住居専用地域 第2種中高層住居専用地域	55 dB以下	45 dB以下
B 地域	第1種住居地域 第2種住居地域 準住居地域 用途地域の定めのない地域		
C 地域	近隣商業地域 商業地域 準工業地域 工業地域	60 dB以下	50 dB以下

○ 道路に面する地域の環境基準

地 域 の 区 分	昼 間	夜 間
A地域のうち2車線以上の車線を有する地域	60 dB以下	55 dB以下
B地域のうち2車線以上の車線を有する地域	65 dB以下	60 dB以下
C地域のうち車線を有する地域		

○ 幹線交通を担う道路に近接する空間の環境基準

区 分	昼 間	夜 間
屋 外	70 dB以下	65 dB以下
窓を閉めた室内	45 dB以下	40 dB以下

＊ 「幹線交通を担う道路」とは、高速自動車国道、一般国道、都道府県道及び4車線以上の市道等をいう。

＊ 「幹線交通を担う道路に近接する空間」とは、次の車線数の区分に応じ道路端からの距離によりその範囲を特定するものとする。

- | | |
|----------------------------|--------|
| (1) 2車線以下の車線を有する幹線交通を担う道路 | 15メートル |
| (2) 2車線を超える車線を有する幹線交通を担う道路 | 20メートル |

＊ 環境基準の評価について

平成10年9月30日付環境庁告示第64号「騒音に係る環境基準について」により、環境基準の評価方法が、点的評価から面的評価に変わった。

(2) 自動車騒音の要請限度

地域の区分		時間の区分 昼 間 (6:00~22:00)	夜 間 (22:00~6:00)
1	a区域及びb区域のうち1車線を有する道路に面する区域	65 dB	55 dB
2	a区域のうち2車線以上の車線を有する道路に面する区域	70 dB	65 dB
3	b区域のうち2車線以上の車線を有する道路に面する区域及びc区域のうち車線を有する道路に面する区域	75 dB	70 dB

＊ 幹線交通を担う道路に近接する区域に係る限度は、表の規程にかかわらず昼間においては75dB、夜間においては70dBとする。

＊ 備考 a区域：専ら住居の用に供される区域

b区域：主として住居の用に供される区域

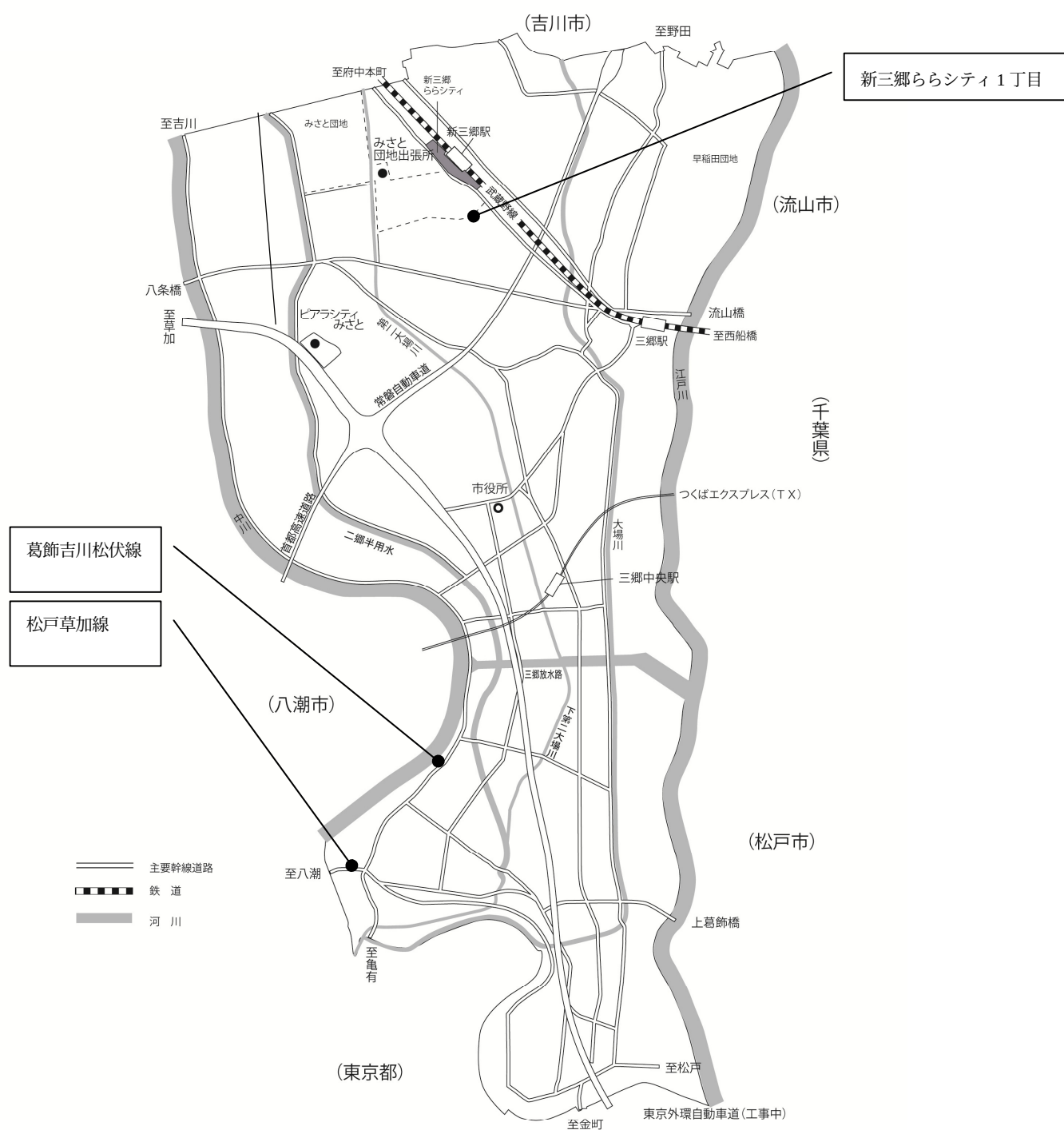
c区域：相当数の住居と併せて商業、工業等の用に供される区域

(3) 道路交通振動の要請限度

地域の区分		時間の区分 昼 間 (8:00~19:00)	夜 間 (19:00~8:00)
1種	第1種低層住居専用地域 第2種低層住居専用地域 第1種中高層住居専用地域 第2種中高層住居専用地域 第1種住居地域 第2種住居地域 準住居地域 用途地域の定めのない地域	65 dB	60 dB
2種	近隣商業地域 商業地域 準工業地域 工業地域	70 dB	65 dB

(4) 測定調査地点等

測定地点	発生源の種類	測定項目
三郷市戸ヶ崎 2404 先 (葛飾吉川松伏線) 三郷市戸ヶ崎 3157 先 (松戸草加線)	自動車	騒音・振動
新三郷ららシティ 1-388-38 先	鉄 道	騒音・振動



2 交通騒音・振動調査

(1) 鉄道騒音・振動（JR武蔵野線の測定結果と評価）

JR武蔵野線にかかわる騒音・振動については、毎年1回定点測定調査を行なっている（表30）。

平成26年度の騒音（等価騒音レベル：Leq）については、62dBであった。また振動については、58dBであった。

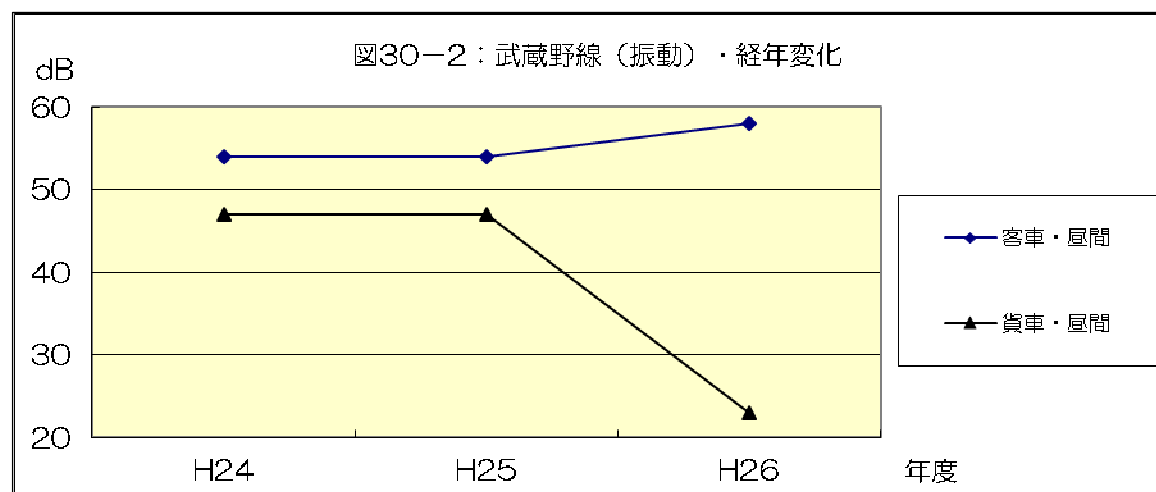
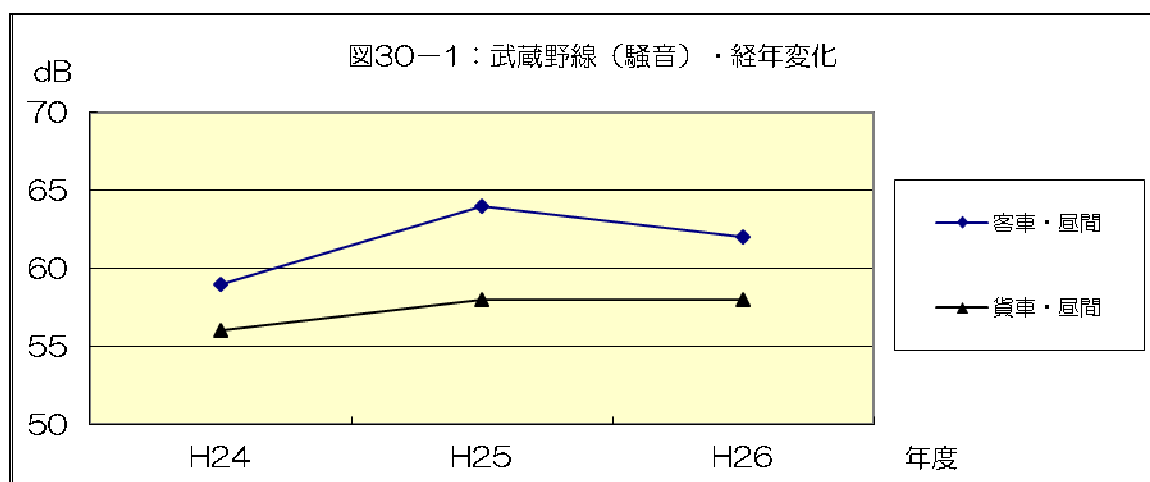
過去3ケ年の経年変化では、騒音はほぼ横ばい、振動は客車が増加、貨物が減少傾向であった。（表30、図30-1、2）

鉄道騒音、振動は、車両構造、車両数、速度及び軌道の状態等により異なるため、今後も監視する必要がある。

武蔵野線騒音・振動年間値及び経年変化（表30）

項目／種別／年度		24年度	25年度	26年度
騒音 (dB)	客車	64	59	62
	貨物	58	56	58
振動 (dB)	客車	54	54	58
	貨物	47	47	23

測定場所：新三郷ららシティ 1-388-38 先、測定地点：軌道敷から 12.5m



(2) **自動車騒音・振動** （測定結果と評価）

平成26年度は葛飾吉川松伏線の戸ヶ崎2404先、松戸草加線の戸ヶ崎3157先で24時間連続測定を行なった。その測定結果は表31のとおりである。

騒音（等価騒音レベル：Leq）については、それぞれ、昼間が73dBと71dB、夜間が71dBと68dBであった。振動については、昼間が69dBと53dB、夜間が68dBと50dBであった。

自動車騒音・振動は交通量、通過速度及び路面状態等で異なるため、今後も監視する必要がある。

県道の24時間測定年間値及び経年変化〔単位：dB〕（表31）

項目／種別／年度		H24	H25	H26	
		三郷・吉川線	上笹塚谷口線	葛飾吉川松伏線	松戸草加線
騒音	昼間 (6:00～22:00)	64	68	73	71
	夜間 (22:00～6:00)	59	64	69	68
振動	昼間 (8:00～19:00)	43	41	69	53
	夜間 (19:00～8:00)	38	35	68	50

